

「こどもは、死んじゃあいけない人たちだよね…」 小児がんはもう不治の病ではありません。



平成21年度
文化庁映画賞
日本カトリック映画賞
受賞

子どもたちがあそこまで、
ちゃんとしなやかに立ち直って、ねえ…
人間は強く創ってあるんだ、
ポジティブに上手に経験を利用して
ほかの人にも影響を与えながら
生きていけるって、
とても力づけられますよね。

細谷亮太

(小児科医・聖路加国際病院副院長)

伊勢真一演出作品

10年の歳月が、命の尊さ、
生きる意味をやわらかに問いかける。

「風のかたち」はどんなかたち？

風のかたち

— 小児がんと仲間たちの10年 —

ドキュメンタリー映画105分

企画 / スマートムンストン

監修 / 細谷亮太 月本一郎 石本浩市

製作 / いせFILM



芸術文化振興基金助成事業

問合せ ● いせFILM TEL.03-3406-9455 FAX.03-3406-9460



「再生」

10年前の夏、私は小児がんや闘う仲間達の一
群と三浦海岸で出逢いました。細谷亮太医師
(小児科・聖路加国際病院副院長)がリーダー
のひとりである。SMSサマーキャンプに撮影ス
タッフと共に参加したからです。そこには、病気を
克服し、社会の小児がんに対する偏見や差別を
跳ね返そうともが子ども達がいました。

小児がんはもう、不治の病ではありません。
現在、全国におよそ2万5千人いと言われる小
児がん患者の10人のうち、7人から8人までもが
治っているのです。医学の進歩は、20世紀後半
から、小児がんを“治る病気”に変えたのです。
恥ずかしいことに、私がそうした事実を知ったの
も、キャンプに参加してからです。
以来10年、「命を救ってもらったお返しのため
に私は、困ってる人や弱い人を助ける仕事をした
い…」と夢を語っていた少女は看護師になり、
「子どもが欲しい…」と切実に吐露していた放射
線治療体験者が無事、母親になる姿を記録する
ことが出来ました。

「学校の先生になり、小児がんや難病のことを子
どもたちに知って欲しい…」という願いを胸に他
界してしまった仲間もいます。
カメラは子どもたちだけでなく、医療の現場で、
ずっと子ども達を見守り続けてきた細谷亮太医
師の10年間をも記録しました。
「子どもは死んじゃいけない人たちだからね」
カメラに語りかけたこの言葉こそが、映画「風の
かたち」の立ち位置です。

10年間の歳月が語りかける、小児がんや闘う仲
間達の生きる力… それは不断に蘇る命そのもの
の力ではないでしょうか。
時間をかけて、ひとりひとりの命を見続けること
で見てきた「再生」という希望が描かれます。
小児がん患者や体験者を、悲劇の主人公では
なく、「再生」のシンボルとして描いたこの物語
は、命の尊さ、生きる意味を問いかけ、心が病ん
だ時代としばしば言われる私達の社会に、希望
をメッセージするに違いありません。
今、この作品は私にとって、社会にとって、必然
であると確信します。

伊勢真一 (かんとく)

伊勢真一

1949年東京都生まれ。「奈緒ちゃん」「びぐれっ」と「ありが
とう」「えんとこ」をはじめ、多くのヒューマンドキュメンタリー
を製作。近年は若手の作品プロデュースも積極的に手が
けている。日常をふんわりと映し出す映像の中に、生きるこ
との素晴らしさが込められた独特の作風で知られる。

監修 — 細谷亮太 月本一郎 石本浩市
協力 — 聖路加国際病院 済生会横浜市東部病院こどもセンター
あけぼの小児クリニック 毎日新聞社
財団法人がんの子供を守る会
本橋由紀 渡辺輝子 中島晶子
近藤博子 樋口明子 稲塚彩子 横川めぐみ
キャンプに参加した子どもたち・ボランティア 清水晶子
撮影 — 石倉隆二 世良隆浩
撮影協力 — 内藤雅行 田辺司 東志津
照明 — 箕輪栄一
作曲・歌 — 苔米地サトウ
編曲 — 横内丙午
音響構成 — 渡辺文彦
録音 — 井上久美子 永峯康弘
制作 — 米山靖 助川満
宣伝デザイン — 森岡寛貴 (ジオグラフィック)
絵 — 伊勢英子
題字 — 細谷亮太
製作 — いせFILM、スマートムンストーン関連映画製作委員会
製作協力 — ヒボコミュニケーションズ
演出 — 伊勢真一



芸術文化振興基金助成事業

風のかたち

企画 スマートムンストーン
伊勢真一演出作品

病気を体験した子どもたちが、
弱さを強さに変えて行く姿。
医師やボランティアたちが、
病気の子どもとかかわることで、
力を得て行く姿。
にんげんの生きる力、希望のようなもの…

「よく頑張ったな」って気がしますね本当に。
この子たちって結構思いやりがあるでしょ。
他人の気持ちがわかるしね。
それと、僕らが真似しなくちゃいけないくらい
セルフコントロールが出来ているしね。

月本一郎 (済生会横浜市東部病院こどもセンター)

辛い思いを経験して、それを克服して、
いろいろな人に世話になって、
いろいろな思いをして成長している訳ですよ。
堂々と自分の病気も言ってね。

石本浩市 (あけぼの小児クリニック院長)

お問合せ いせFILM 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-3-7 青山N-ブリックビル3F TEL.03-3406-9455 FAX.03-3406-9460